



東京農業大学  
地域環境科学部 造園科学科  
准教授

## 福岡 孝則 氏

【専門】：オープンスペース、グリーンインフラ、都市デザイン

【主な活動】：国土交通省 緑地政策におけるグリーンインフラの実装に向けた検討会  
国土交通省 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム企画・広報部会長  
JLAU IFLA 委員会理事 等

### 昨年の指摘への対応状況

環境報告書として良い仕上がりになっていると思います。昨年度の有識者からご指摘のあった、「UR都市機構の各部門の理念・ビジョン・方針の明確化」という課題に対しては、「環境配慮に関する各部門の行動」(P9)を新たに掲載され、しっかり対応されていることが分かります。また「環境に配慮したハードウェアの計画・デザインについてのアピール」というご指摘についても、昨年度の報告書がソフト面の取組みの掲載が中心だったのに対し、本報告書ではハード面もソフト面と同程度のバランスで掲載し、URの環境に配慮したまちづくりの取組みがより伝わるようになりました。

### 街区レベルの環境性能設定等のファクトの明示が必要

一方、「URの街区・地区単位での環境負荷低減の取組みのアピール」というご指摘への対応として、本報告書では2つの事例(P28-29)を取り上げていますが、どちらかという建築物の情報が多いうように思いました。「エコディストリクト」の要件を満たすためには、建築物だけでなく、街区単位でクリアしなければならない性能があります。公開空地をどのように位置付けていくのか等、街区単位の要素をもっと伝えられると良いでしょう。うめきたの事例(P31)で言えば、街区内の洪水調整機能や熱環境改善効果、街区の中央に配した公園面積とその防災や健康への効果等、どのような環境性能を設定して計画されているのか、そしてどんな効果があったのかという、ファクトが分かると、URの取組みがより伝わりやすくなると思います。

### 積極的な情報発信を海外へ

海外から見ると、日本から発信されたベストプラクティスが非常に少ない印象です。様々な施策に取り組まれていることを積極的に発信し、海外に広くアピールしていくことが重要です。URの環境配慮に関する取組みは素晴らしいと思いますので、日本だけでなく海外のステークホルダーも視野に入れた情報発信を意識されると良いでしょう。そのためには、環境報告書の英語版の発行、あるいは本報告書のエッセンスを英訳するだけでも意味があると思います。

### 各分野の知見を集結し、組織横断で取り組んでほしい

URは、プレイスメイキングやコミュニティづくり、屋外公共空間を核にした都市の再整備等、個別では様々な素晴らしい取組みをされています。一方でそれぞれの取組みの連携という点においては、課題があるのではないかと感じます。加えて、それらを都市スケールの戦略や計画に統合し、振り付ける司令塔のような部署が今後求められるでしょう。個々の知見を組織内で共有・連携することで、さらに素晴らしい価値を生み出せる可能性があります。P9で示されている「資源」、「エネルギー」、「自然環境」、「安全・安心快適性」、「ライフスタイルコミュニケーション」、「環境負荷の少ない事業執行」という6つのカテゴリーを意識しながら、ぜひ組織・分野横断的な取組みを推進していただきたいと思います。